

平成30年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1472201647	事業の開始年月日	2003. 2. 1
		指定年月日	2003. 2. 1
法人名	特定非営利活動法人 偕老会		
事業所名	偕老ホーム		
所在地	(252-0824)		
	藤沢市打戻1896番地		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	18名
		ユニット数	2ユニット
自己評価作成日	平成30年9月1日	評価結果 市町村受理日	平成31年4月1日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

スタッフは入居者のできることを見極めることができるように努め、入居者それぞれの能力に応じた役割を創ること、そして適切なケアを行うことに努めている。家庭的な雰囲気を創り出し、家事活動、季節事の行事や地域の行事に参加する、身体を動かし外出することで元気になります。また家族や地域の方々と交流する機会をつくり、テラスオープンカフェ”すまいる”や地域の行事に参加している。小学校のおはようボランティアは継続して行っています。また”トワイライトステイ”は夕方から子ども一時預かりを行っている。また家族や入居者の希望では最後までここで過ごしたいという意向があり、看取りの介護も自然となり、医療と連携すること、家族の協力得て共に看取りを行っている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区山下町23番地 日土地山下町ビル9階		
訪問調査日	平成30年11月5日	評価機関 評価決定日	平成31年1月21日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【事業所概要】 この事業所は小田急江ノ島線長後駅からバスで20分程の商店、農協、小学校が近隣にある住宅街に立地している。建物は鉄骨造りの3階建てで1階と2階にユニットがあり居室にトイレと洗面台がある。利用者と職員が毎月避難訓練を行い災害に備えている。 【市の介護保険課以外の部署とも協力関係を構築】 介護相談員の来訪、市の介護保険課および地域包括支援センターの職員の運営推進会議への参加、こども家庭課の子育て支援事業の受託、教育指導課の「おはようボランティア」など介護保険課以外の部署とも連携し協力関係を築いている。 【ボランティアの協力も得て積極的な地域交流】 年間行事計画書を作成し季節の花見、どんど焼きや夏祭りなどの地域行事に職員と利用者が積極的に参加している。ボランティアの協力も得て出張カフェや事業所でのオープンカフェの活動などでも交流の輪を広げている。 【身体拘束をしないケアの実践】 身体拘束はしないと宣言し、玄関やユニット扉などは施錠していない。3ヶ月に1度身体拘束検討委員会を開催している。家族から施錠の依頼があった際には、閉めることの弊害や事業所の指針を説明し理解を促している。職員は、毎月身体拘束に関しての自己点検を実施し、スピーチロックや、なれ合いの言葉にならないよう注意し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。
--

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	借老ホーム
ユニット名	ひばり

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	H30	1Fひばり自己評価	外部評価	
			実施状況		実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に基づいたケアサービスの提供に取り組んでいる。理念を玄関・フロア・スタッフルームに掲げ、全体申し送り時に唱和し、共有するように努め、またケアの振り返りをしている。		開所時の職員が作成した「入居される方々のあるがままを受け入れます」など5つの理念を掲げ各ユニットや玄関などへ掲示し共有している。週1回の利用者の情報報告時の唱和でも理念を確認して実践するよう努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に積極的に参加している。自治会活動も町内会に加入し、今年は班長をしている。回覧板をまわす、自治会費を集金するなど、日常的に行なっている。また毎日商店街へ買い物に行き、近隣の方々と顔馴染みになり挨拶を交わしている。町内会の行事に参加することや清掃のゴミ拾いを行っている。毎年市民文化祭では企画から参加し役割を担っている。また収穫祭にもカフェコーナーを担当し喜ばれている。地域のお年寄りの集まる公園体操にも週に一回参加し交流を図っている。小学校の運動会にも招待が来るようになった。小学校のおはよう運動も7年目に入り、道ですれ違えば子供達が挨拶をしてくれるようになり、クラスごとの訪問で交流している。こども110番の看板を玄関に掲げている。玄関前には長椅子を置き近所の高齢者の休憩場所となっている。		打戻町内会に加入している。市民文化祭や納涼祭など様々な地域の行事に積極的に参加している。今年は班の班長を担い会合への出席や会費の集金を通して顔みしりが増えている。月1回開催のオープンカフェには地域の方や公園体操の仲間が訪れ利用者と交流している。カフェの手伝い、繕い物、太鼓演奏、フラダンスなどのボランティアが訪れ交流している。小学生とは登校時の児童への挨拶や児童が事業所を訪れ、歌唱や遊びなどを通し、利用者と交流している。	

自己評価	外部評価	項目	H30	1Fひばり自己評価	外部評価	
			実施状況		実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎月第三金曜日に、テラスオープンカフェを開催している、地域の方に自由に来て頂く様にしている。またホーム、入居者の様子を知ってもらえるよう努めている。そのカフェに認知症相談所を設けている。コミュニティかわせみにて2ヶ月に1回移動カフェを出店し、地域の方々と交流できる場所となっている。		/	
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの活動報告や地域の方からの情報も頂き、意見交換を行なっている、また行事等にも参加して頂きサービスの実際を見て頂いている。出された意見は、職員会議等で報告し話し合うようにしている。		運営推進会議を2か月に1度奇数月に行っている。参加者は民生委員、老人クラブ、元自治会長、元御所見小学校評議員、家族、退去した利用者の家族、地域包括支援センター職員、市介護保険課職員である。事業所の活動報告などを行っている。参加者から大雨の際に公民館に避難した例などの情報を得て参考にしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行政は運営推進会議に参加、市内のグループホーム連絡会に参加して情報の共有を行っている。5年目を迎えた、子育て支援事業のトワイライトステイ事業の委託は市や利用者家族から高評価を得ている、また子どもと入居者との絆が生まれている。地域と連携を取っている。		介護相談員が毎月訪れている。子育て支援事業を受託し、保育園へ迎えに行き、夕食を提供して21時まで子供を預かっており、子供支援課の職員とも連絡を取り合っている。運営推進委員会に市の介護保険課の職員が参加している。地域包括支援センターの職員とは、入居の相談などで協力関係を築いている。	

自己評価	外部評価	項目	H30	1Fひばり自己評価	外部評価	
			実施状況		実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしないと宣言している。施錠はしていない。毎月ホーム内の全職員での勉強会では、身体拘束の自己点検チェックシートを使い実施している。特に今年は言葉の使い方について力を入れている。身体拘束等の適正化のための指針を作成し、全職員へ周知している。		玄関および各ユニットの出入り口は施錠していない。利用者の出たいそぶりを見かけた時は職員と一緒に外に出る。毎月自己点検して身体拘束や虐待について職員が確認している。3ヶ月に1度身体束検討委員会を開催し、行動制限やスピーチロックをしていないかなどを話し合い身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内外の研修で学ぶ機会はある。自己点検シートを使い職員各自行い、どんなことが虐待なのか、職員間で確認し防止に努めている。また困り具合や気になることをお互いに出し合い、全体の問題として話し合い、虐待に繋がらないように常に職員の質の向上および連携と統一ケアに努めている。		/	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修や内部研修で学ぶ機会はある。家族には機会があるごとに制度について話している。今後も制度について情報提供していく。		/	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	常に細かいことでも、相談し丁寧に説明を行い書面を交わしている。入所時に関わらず、常時気軽に何でも尋ねて頂けるように声をかけるように努めている。		/	

自己評価	外部評価	項目	H30	1Fひばり自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃より家族とは気軽に話せる雰囲気があり、来訪時には入居者の様子やケアのあり方を話すようにしている。家族会では、認知症の勉強会を行うことや、交流できる場を設けて、ご意見や要望を言えるように働きかけている。毎月相談員の方が来訪し、入居者の方へ聞き取りをしているので細かい事でも即実行している。	利用者の様子を写した「偕老ホームの四季」の発行やロビーでの写真展などで家族に利用者の様子を伝えた上で家族に意見を聞いている。意見箱、家族会、家族に参加を呼び掛けるの行事、家族の来訪時などの機会に職員は家族の要望を聞いている。			
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	入居者と職員を中心に考えており、何事もオープンにしている。代表者や管理者はいつでも職員の意見や提案を聞き入れる機会を設けている。法人の会合に職員も参加する機会があり、職員の意見を尊重している。	管理者は、個人面談や毎月の職員会議などで職員の意見を聞いている。職員の労働時間短縮の希望により、管理者は勤務体制を変更し、環境を整えている			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	向上心を持って働けるように各自が個人目標を定め達成に向けて努力している。職員のやりたいことを尊重している。また労働時間の短縮と業務の効率化を図るため、勤務体制変更を行い、働きやすい環境づくりに取り組んでいる。代表者・管理者は職員の意見を聞く機会を設けている。				
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外研修を積極的に行っている。毎月の勉強会は題材がより身近なもので即実践に役立ちとても有効的である。また外部講師を招いて研修を行っている。外部研修者は勉強会で他の職員へ報告して居る。				
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	研修会に参加することで交流が出来ている。県や市の連絡会に参加して交流している。お互いの行事等に入居者と共に相互訪問している。お互いに学び・刺激になり質の向上に繋いでいる。				

自己評価	外部評価	項目	H30	1Fひばり自己評価	外部評価	
			実施状況		実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	管理者と担当職員で入所前に自宅訪問し、本人の思いや生活歴等を聞き取り、職員間で情報を共有し、入居後本人と共通会話ができるようにし、関係作りに努めている。特に入居者の力を活かした活動に参加を促し仲間作りの支援をしている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の思い、意向を聞き、家族の困りごと、望んでいることを聴き、認知症状とケアのあり方、介護疲れを労う。見学や体験時、入居者の方と共に会話して頂きながら、ホームでの暮らしの状況を説明している。家族を入居させることの負い目と不安を軽減できるようにしている。昨年は新しい方が3名、今年1名入居されたが、それぞれの入居者を尊重するケアに努めていることを伝えている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時は経験豊富な職員が対応する、また固定した職員が常に側にいるように努め、自由に過ごしてもらい、職員全員で本人が必要としている支援を行うために、ケア会議を行い統一ケアに努め本人が安心して居られる環境づくりに努めている。帰宅訴えの強い方などには、家族の協力を得て、毎日訪問して頂けるようにした。地域包括支援センターの担当者との連携をとった。			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者本意を尊重し、できること、できないことを見極め、利用者の生活歴や昔話を聞いたり、家事のアドバイスを受けたり、会話を楽しみながら、作業が終わった後は、労いの言葉を伝え、お互いに支え合える関係作りに努めている。利用者と職員と支えあい暮らしを共にする事で喜怒哀楽を共に味わっている。			

自己評価	外部評価	項目	H30	1Fひばり自己評価		外部評価	
				実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている		家族がいつでも気楽に来られる様な雰囲気作りに努めている、また来所の折には状況を伝えている。行事等で家族と関わりをもつ機会も多く、情報交換ができ、信頼関係も築けている。いつも家族は協力的で、行事等の参加が多い。			
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている		家族や孫・ひ孫さん・親戚や知人の訪問がある。認知症が進行すると知人とのなじみの関係が薄れてくるが、職員と共に地域に出かけることで、新たに馴染みの関係ができていく。		アセスメントや家族の話から利用者のこれまでの馴染みの関係を把握して、知人や親戚が来訪した時にはゆっくり歓談できるように配慮している。地域の行事やオープンカフェなどで知り合った方や近所の理容院などの資源を利用することで新たな関係ができていく。利用者が好む針仕事や調理などこれまでの趣味や生活習慣の継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている		活動を通して、皆で協力し合う関係作りに努めている。くつろぎの時間では、ソファにすわりテレビを観たり、お茶を飲みながら世間話などができるように職員から働きかけている。			
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている		ホームの行事にボランティアとして参加して頂いている。カフェに寄ってくださる。近所で逢ったときは話をしている。また運営推進員として協力を頂いている。毎週金曜日に定期ボランティアに来て頂いている。			

自己評価	外部評価	項目	H30	1Fひばり自己評価	外部評価	
			実施状況		実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。 困難な場合は、本人本位に検討している。	日常生活の関わりを通して、話す機会を多く持ち、本人の思いや希望を聞き取っている。ケア会議を開催し職員間で共有し、本人の意向をケアプランに反映し、本人本位のケアに努めている。また意思表示できない方は、日頃の言動、表情等により推し測り理解するように、また家族の意向も聞き取りするようにしている。		アセスメントや日常会話の中で意向をくみ取っている。誕生日には本人の願いを叶えることにしており、利用者の意向を把握して外食したり、ディズニーランドに出かけている。意向の把握が困難な場合は、利用者が発した声や表情などから思いを読み取り検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に生活歴やライフスタイルについて、詳しく聞き取りしている。入居後も家族や本人からの情報を職員間で共有し、職員・家族と共にその人らしい暮らしができるように努めている。		/	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの状態を把握するため、職員間の情報を共有するための、申し送り・記録を行っている。本人ペースで役割を持って活動ができ、穏やかな時間を過ごせるように連携している。ベテラン職員は現状を理解している。		/	

自己評価	外部評価	項目	H30	1Fひばり自己評価	外部評価		
			実施状況		実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の現状の様子を観察し、また本人及び家族の意見を取り入れ、ケース会議で検討している。本人の役割や願い・思いを取り入れたもの、また家族や地域との係わりが継続できるように介護計画書を作成している。毎日モニタリングを行い、ケア日誌へ記録している。		利用開始時は、アセスメントを基に介護計画を作成している。利用者は何が判り、何が判らないか、役割は何ができるかを観察し、本人や家族からの要望を把握した上で計画書を見直している。短期目標は3ヶ月に1度、長期目標は6ヶ月に1度見直している。ケース会議で検討をして、状態の変化が見られた際は、随時計画を見直している。ケア日誌には、短期目標の実施が確認できるよう目標に番号を付けて、ケアを実践した目標の番号を記入している。		スタッフ間の連携や情報共有の強化を目的として、分かりやすく記録する事と、情報の漏れがないように記録する事を心がけ、更なるケアの質向上に繋げる事を期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア記録24時間シートを使い、勤務者全員で関わった入居者の様子や、気づきを記入しているが、特に注意すべきことは、赤ラインを引き、ケアが変化したことを共有している。また、本人の意向を記入する時は本人の言葉をそのまま記入することも行っている。スタッフは業務日誌・ケア日誌・職員ノート・送り表等を確認するよう指示し、ファイリングは時系列で確認ができるようにしている。		/		/
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者の希望に対して家族や社会的資源・地域資源・他事業所の協力により柔軟に支援している。特に個別を尊重している。誕生日には本人の願いを叶えるために、どうしたらできるか取り組む。		/		/

自己評価	外部評価	項目	H30	1Fひばり自己評価		外部評価	
				実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している		毎日近隣へ買い物に出かけ近隣の方と挨拶を交わしている。町内会に加入し、今年は班長を任されているため回覧板を回し、自治会費を集金し、ゴミ拾い、町内会のレクリエーションに参加している。また地域の行事や小学校の運動会等見学など多くの行事に参加している。特に地区の文化祭には、毎年合唱の発表をし、模擬店にも参加している。毎朝小学校の正門前に立ちおはようの声掛けボランティアも継続し、小学生の訪問を受けたり、小学校の祭や運動会に招待されている。地域の施設間でも交流があり、運動会やお祭等に参加している。近隣の福祉農園で春、秋2回芋掘りに出かけている、芋掘りの時期になると必ず声をかけていただき、芋掘りと旬の味覚を楽しんでいる。ADLが低下している方でも、本人の意向を尊重している。			
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している		訪問医は本人及び家族と話す機会があり、気軽に聞くことができる。特に看取りになったときには、時間に関係なく対応し、職員の質問にも気軽に分かるように説明している。緊急時はオンコールで早めの対応ができています。家族からの信頼も得ている。		協力医療機関の医師の往診が月2回あり、利用者全員が受診している。歯科医は必要時に訪問している。看護師が週1回出勤し健康管理をしている。以前からのかかりつけ医は、家族や職員が対応し受診している。受診後に家族から報告を受けて「医療連携介護看護記録」などで情報を共有している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している		医療連携体制をとっている。週一回看護師が来て、ここ1週間の入居者の様子、体調の変化、気づき等情報を伝え、看護師から適切なアドバイスを受けている。			

自己評価	外部評価	項目	H30	1Fひばり自己評価		外部評価	
				実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院した場合は情報提供を行い、家族と共に治療経過を聞く。入院中の問題や退院時に退院後の指導がある場合には、病院へ出向き十分な打ち合わせを行う。訪問医も入院先に向いて情報提供をしている。病院側の地域連携室の方とは顔なじみで、ホームのことをよく理解してくれるようになってきた。</p>				
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>本人の希望は病院へ行きたくない、家族の希望はもう痛いことはさせたくない、ホームにいたことが本人が一番落ち着いているので最後までホームで過ごしたいと希望される方がほとんどである。家族や訪問医と連携し、生活の場での看取りをしている。実践では家族と訪問医、管理者と何度でも話し合い、その意向を踏まえ、職員間でも繰り返しカンファレンスを行う。最後まで口から食べて、その人らしく、人生を全うされるように努めている。</p>	<p>利用開始時に「偕老ホーム看取り介護に関する指針」をもとに事業所の方針を説明している。終末期には指針と「看取り介護についての同意書」で家族などの意向を確認して支援している。医師及び看護師、家族などと連携し、これまでに20名以上の看取りを経験している。</p>			
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>ほぼ全員が救命救急の研修を受けている。応急手当・緊急時の対応マニュアルを作成し周知している。また入居者の既往歴、服薬、連絡先、保険証情報を記載した個別カードを作成し外出時は持参し活用している。</p>				

自己評価	外部評価	項目	H30	1Fひばり自己評価	外部評価	
			実施状況		実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月入居者と職員は避難訓練を行い、年2回は消防署や業者の協力により、通報・消火・非難訓練を実施している。また地域の総合防災訓練にも参加している。災害時の必要物品も準備している。地域の住民との協力体制はないが、近隣の種別を越えた施設との連携は行っており、定期的な会合を行っている。		利用者や職員が慣れることを目的に避難訓練を毎月行っている。消防署や業者立会の総合訓練も行っている。近隣の他施設と定期的に災害について話し合い相互で協力できるよう努めている。災害に備え日用品や水と米、非常食、七輪や炭、卓上コンロなどを準備している。	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員はその方の特徴を捉え人格を尊重しながら、それぞれが分かりやすい言葉で対応しているが、関係性が近くなると馴れ合いになることもあり、言葉の使い方に注意するように日々職員間で注意し合っている。個室に洗面所とトイレが付いているので、排泄・更衣時のプライバシーは守れている。関係書類については鍵をかけ管理している。		入浴は個浴で、トイレと洗面台が各居室にあり、プライバシーと羞恥心に配慮できる造りになっている。利用者を尊重した言葉づかいをするよう努めており、訪問時に人格を損なうような職員の対応は見受けられなかった。個人情報に関する書類は、施錠できるキャビネットに保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に主体は入居者であることを理解し、本人がどうしたいか問いかけ自己決定ができるようにしている。細かい事では毎日の飲み物や食べたい物があるか尋ねたり、買い物時希望があれば、取り入れている。また誕生日には本人の希望を実現するようにしている。説明と同意を得るようにしている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを把握し尊重している。行動を制限することなく、本人ができる役割を持ち、動くことを大切に、押し付けでない生活の支援を心掛けている、家事活動などは協力をお願いし、終えたあとはお礼を述べるようにしている。			

自己評価	外部評価	項目	H30	1Fひばり自己評価	外部評価	
			実施状況		実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	汚れた時はすぐに取り替えるようにしている。毎日下着の交換を行い、衣服の汚れ・臭いには配慮している。自分で洋服を選ぶことができない方が多数だが、特に外出や行事のときはその方の好みのものを用意している。理・美容は行きつけの所へ同行していたが、最近は困難な方が増えたので、近所の理容師の方へ毎月来て頂いている。行事等では化粧をするなど着飾ることをしている。		/	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	美味しいものを食べることが一番楽しみにされているので、毎日何が食べたいかを尋ね、好みのもの、新鮮で旬のものを味わえるようにしている。美味しいものを食べると元気であることを実感している。毎日買い物に出かけ、食べたいものを選んでもらう、三食とも入居者と共に調理、盛り付け、片付けを行い、職員も一緒に食べて楽しく会話をしている。誕生日にはその方の好みのものを取入れている。外食時には自分で食べたいものを選んでいく。しかし常食が摂れなくなった方には、その方に合った形態食が必要になり、なめらかな形態でない飲み込みが弱い方にはミキサーを使用し、咀嚼力が弱い方には味が損なわれないような形態にするため、すり鉢を使用したり一口大に切り食べやすい形で提供している。		新鮮な食材を使用し朝食は果物と、牛乳またはヨーグルトを必ず提供している。買物は利用者と一緒にいき利用者の食べたい物を選んでもらい献立に反映している。ミキサーなどを使用し利用者に応じた形態の食事を提供している。誕生日は、ケーキや希望の食事を提供したり外食に出かけるなどして食事を楽しむことができるような工夫をしている。訪問時には、利用者が職員と一緒に調理の下ごしらえや配膳などを行い、職員は介助や見守りをしながら利用者と同じ物を一緒に食べていた。出来ばえを楽しみにぬか漬、梅干、しそジュースなどを作り食卓にのせている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	口から新鮮で自然なものを摂ることを基本としている。また、1人ひとりの食べる量を把握し栄養バランスのとれた食事に配慮している。食事量の少ない時は補食し、高カロリーのものを摂取している。水分量は最低1500ccを摂れることを目指し、嚥下困難な方は形態を個別に変えながら、飲み込みのよい、好みのもの等々工夫し支援している。		/	

自己評価	外部評価	項目	H30	1F	ひばり自己評価		外部評価	
			実施状況		実施状況	次のステップに向けて期待したい内容		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後それぞれの状況に応じて、声掛けや見守り介助を行っている。義歯洗浄管理も必要に応じて行なっている。ご家族が予防のため定期受診をされている方がいる。		/		/	
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	入居者が重度化することにより、排泄に掛かる時間が増加してきた。個々の排泄パターンを把握し、オムツにしない様に努め、トイレでの排泄や皮膚トラブルを減少するためにも、通気性を良くするため、パットとパンツで対応しほとんどの方がトイレでの排泄に努めている。座位のとれない方でも、2人介助でポータブルトイレで排泄ができるよう努めている。失敗があったときには、プライバシーに気をつけ、入浴、清拭や洗浄を行うようにしている。		個々の排泄パターンを把握し、トイレで排泄ができるよう支援している。日中は布パンツにパッド使用が主で、吸収量の差などメーカーのパットの品質を試すなどして個々に合わせた支援をしている。布パンツの使用でかぶれなどの皮膚トラブルを防いでいる。			

自己評価	外部評価	項目	H30	1Fひばり自己評価		外部評価	
				実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる		排泄のチェックを行うと共にできるだけ自然排便につながるように、食材には食物繊維の多いものや乳製品を使用、野菜ジュース等飲み物や水分量にも気をつけている。散歩や買い物等で運動を促すなど日中の活動にも気をつけている。病状から改善できない場合には、看護師や主治医へ相談し指示をもらう。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている		希望に応じた支援を行っている。好みの温度や時間など、声をかけるタイミングも重要である。ゆず湯 菖蒲湯は好評である。重度化により入浴が困難な方には、負担が掛からないように入浴用のリフトを使用し、不安感や危険防止のため二人で介助している。		毎日お風呂を沸かし、入浴の度お湯を替え概ね週2～3回ペースで入浴している。2階はリフトの設備がある。入浴を好まない利用者には無理強いせず時間を空けたり職員を変えて入浴を促している。ゆず湯などで入浴を楽しめるように工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している		日中でも体力的に休息が必要な場合は、個々に合わせているが、夜間の睡眠に影響しないよう、日中の活動と休養のメリハリに努めている。寝衣の更衣、リネン類の清潔、空調管理等に気をつけている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている		主治医と常に連携し、どのような症状でどんな薬が必要かを理解している。処方指示通りの支援を行い、効き具合の様子を観察し医療に繋いでいる。また、誤薬防止のため、色分けしたボックスで配薬し、毎日2日分をセットして薬ポケットにいれている。1日分を使用したら、スライドする際に確認することができる。災害時には持ち出すこともできる。重度化していくと、主治医の判断のもと服薬の見直しを行い、中止して様子を見る事で、副作用が少なく、逆に元気になることを経験している。			

自己評価	外部評価	項目	H30	1Fひばり自己評価	外部評価	
			実施状況		実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力を活かし、ひとり一役の役割作りを行っている。ホーム内外の行事に参加、その他外食、外出など定期的に行い気分転換を図っている。個別ケアで本人の望むことが実現できる様努めている。			
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	全員が毎日戸外へ出かけることができなくなってきたが、身体状況を見ながら少しでも外気浴に触れられる様に、テラスで過ごす工夫をしている。元気な方々は日常的に外出支援を行なっている。買い物、季節ごとの行事を計画し、家族も参加している。家族やボランティアの協力で、今年のバス旅行は大磯、湯河原へ行き入居者全員が温泉に入浴した。地域の行事ではいつも歓迎して頂いている。お誘いも良く受けている。		個々のリズムや要望に合わせて散歩や買物、お祭りなどの地域の行事、芋掘りや梅もぎ、季節の花見などへ積極的に出かけている。車椅子の方も同様に外出している。「年間行事計画書」を作成し、バス旅行や出張カフェなどに家族やボランティアの協力も得て出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日頃の金銭の管理をきちんとできる方は少なく、外出するときや買い物に出かけたときには、その方の能力に応じて、支払いをしてもらっている。預かり金に関する取り扱い方法が決められている。月末には領収書を沿え報告している。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	認知症状が重度であり、自ら電話をかけたり、手紙を書くことを望まれる方は少ないが、知人からの電話を取り次いだり、親戚からの電話の取り次ぎをしたり、年賀状を一緒に読むことの支援を行う。			

自己評価	外部評価	項目	H30	1Fひばり自己評価		外部評価	
				実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	庭に咲いた季節の花を生け、外出や行事の写真を貼り、フロアではソファを数箇所置き、それぞれが好きな所で過ごしている。玄関には季節ごとの飾り（入居者の作品）で生活感や季節感を採り入れて、和むように雰囲気作りを工夫している。ソファで寝転ぶなど自由に好きな場所で過ごせている。	リビングは広く開放感がある。台所に対面式の作業台があり、利用者が自由に食事の手伝いや配膳などが行えるようになっている。共用空間は、特に気になる音や臭いが無く、開所から15年を経過しているが床などがきれいに維持されている。季節感を採り入れて、リビングに雛人形を飾ったり玄関に庭でとれた柿を飾っている。庭には菊やパンジーなどの季節の花が咲いていた。			
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テラスにベンチを置き、外気浴をしている。陽の当たる窓際には椅子やソファを置き、日向ぼっこをされている。またテレビの前にもソファをおいて、仲間とともにくつろげる居場所を作り、それぞれ好きなところで過ごしている。疲れた時はみんなの声が聞こえるように、ソファで横になり休養をしている。				
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具などはできるだけ自宅で使われていたものを持ってきて頂き、配置もできるだけ同じようになるように工夫をお願いしているが、全員ではない。部屋の場所は分からない、他者の部屋へ入ってしまう、道具を移動してしまう方もいる。	居室内の備品は、換気扇、エアコン、クローゼットで、トイレと洗面の設備がある。壁紙やカーテンを利用者好みのピンク系で統一した部屋がある。部屋ごとに整理ダンス、テレビ、写真など利用者の好みの物が置かれ、居心地良く過ごせるようにしている。			

自己評価	外部評価	項目	H30	1Fひばり自己評価		外部評価	
				実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>建物内部はバリアフリーになっており、自室にはトイレ、洗面台が付いて、手すりが付いている。入り口は引き戸である。歩行が困難であるからすぐに車椅子にするのではなく、手すりの使い方や声かけを行い自由に歩行している。職員は転倒に気をつけて、少しでも歩行が継続できるように、入居者の能力に応じての支援を行っている。</p>				

事業所名	借老ホーム
ユニット名	楓

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	H30 2F楓 自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に基づいたサービスの提供に取り組んでいる。理念を玄関・フロア・スタッフルームに掲げ、全体申し送り時に唱和し、共有するように努め、またケアの振り返りをしている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に積極的に参加している。自治会活動も町内会に加入し、今年は班長をしている。回覧板をまわす、自治会費を集金するなど、日常的に行なっている。また、毎日商店街へ買い物に行き、近隣の方々と顔馴染みになり挨拶を交わしている。町内会の行事には参加することや清掃のゴミ拾いを行っている。毎年市民文化祭では企画から参加し役割を担っている。また収穫祭にもカフェコーナーを担当し喜ばれている。地域のお年寄りの集まる公園体操にも週に一回参加し交流を図っている。小学校の運動会にも招待が来るようになった。小学校のおはよう運動も7年目に入り、道ですれ違えば子供達が挨拶をしてくれるようになり、クラスごとの訪問で交流している。こども110番の看板を玄関に掲げている。玄関前には長椅子を置き近所の高齢者の休憩場所となっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎月第三金曜日に、テラスオープンカフェを開催している。地域の方に自由に来て頂く様にしている。またホーム、入居者の様子を知ってもらえるよう努めている。そのカフェに認知症相談所を設けている。コミュニティかわせみにて2ヶ月に1回移動カフェを出店し、地域の方々と交流できる場所となっている。		

自己評価	外部評価	項目	H30 2F楓 自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの活動報告や地域の方からの情報も頂き、意見交換を行なっている。また行事等にも参加して頂きサービスの実際を見て頂いている。出された意見は、職員会議等で報告し話し合うようにしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	行政は運営推進会議に参加、市内のグループホーム連絡会に参加して情報の共有を行っている。5年目を迎えた、子育て支援事業のトワイライトステイ事業の委託は市や利用者家族から高評価を得ている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしないと宣言している。毎月ホーム内の全職員へ勉強会では、身体拘束の自己点検チェックシートを使い実施している。特に今年は言葉の使い方について力を入れている。身体拘束等の適正化のための指針作成し、全職員へ周知している。 2月に夜間自ら鍵を開け外に行き、行方不明となった際に、家族から鍵をかけるように要求されたが、鍵をかけることの入居者へもたらす弊害を説明し、ホームの方針をご理解とご協力をお願いしたことがある。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内外の研修で学ぶ機会はある。自己点検シートを使い職員各自行い、どんなことが虐待なのか、職員間で確認し防止に努めている。また困り具合や気になることをお互いに出し合い、全体の問題として話し合い、虐待に繋がらないように常に職員の質の向上および連携と統一ケアに努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修や内部研修で学ぶ機会はある。成年後見制度を利用している方もいる。家族には機会があるごとに制度について話している。今後も制度について情報提供していく。		

自己評価	外部評価	項目	H30 2F楓 自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	常に細かいことでも、相談し丁寧に説明を行い書面を交わしている。入所時に関わらず、常時気軽に何でも尋ねて頂けるように声をかけるように努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃より家族とは気軽に話せる雰囲気があり、来訪時には入居者の様子やケアのあり方を話すようにしている。家族会では、認知症の勉強会を行うことや、交流できる場を設けて、ご意見や要望を言えるように働きかけている。毎月相談員の方が来訪し、入居者の方へ聞き取りをしているので細かい事でも即実行している。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	入居者と職員を中心に考えており、何事もオープンにしている。代表者や管理者はいつでも職員の意見や提案を聞き入れるてくれる機会がある。法人の会合に職員も参加する機会があり、職員の意見を尊重している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	向上心を持って働けるように各自が個人目標を定め達成に向けて努力している。職員のやりたいことを尊重している。また労働時間の短縮と業務の効率化を図るため、勤務体制変更を行い、働きやすい環境づくりに取り組んでいる。代表者・管理者は職員の意見を聞く機会を設けている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外研修を積極的に行っている。毎月の勉強会は題材がより身近なもので即実践に役立ちとても有効的である。また外部講師を招いて研修を行っている。外部研修者は勉強会で他の職員へ報告して居る。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	研修会に参加することで交流が出来ている。県や市の連絡会に参加して交流している。お互いの行事等に入居者と共に相互訪問している。お互いに学び・刺激になり質の向上に繋いでいる。		

自己評価	外部評価	項目	H30 2F楓 自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	管理者と担当職員で入所前に自宅訪問し、本人の思いや生活歴等を聞き取り、職員間の情報を共有し、入所されてからの共通会話ができるようにしている。またできるかぎり入所前に体験していただき、関係作りに努めている。特に入居者の力を活かした活動に参加を促し仲間作りの支援をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の思い意向を聞き、家族の困りごと、望んでいることを聴き、認知症状とケアのあり方、介護疲れを労う。見学や体験時、入居者の方と共に会話して頂きながら、ホームでの暮らしの状況を説明している。家族の入居させることの負い目と不安を軽減できるようにしている。昨年は新しい方が1名入居されたが、それぞれの入居者を尊重するケアに努めていることを伝えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時は経験豊富な職員が対応する。また固定した職員が常に側にいるように努め、自由に過ごしてもらい安心して居られる環境づくりにも努めている。本人のアセスメントを行い、本人が必要としている支援は何かを見極め、ケアプランに反映するためのケア会議を行い、職員が統一したケアを行うようにしている。家族には生活の様子を細かく伝え、安心していただけるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	H30 2F楓 自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者本意を尊重し、できること、できないことを見極め、利用者の生活歴や昔話を聞いたり、家事のアドバイスを受けたり、会話を楽しみながら、作業が終わった後は、労いの言葉を伝え、お互いに支え合える関係作りに努めている。利用者と職員と支えあい暮らしを共にする事で喜怒哀楽を共に味わっている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族がいつでも気楽に来られる様な雰囲気作りに努めている。また来所の折には状況を伝えている。行事等で家族と関わりをもつ機会も多く、情報交換ができ、信頼関係も築けている。いつも家族は協力的で、行事等の参加が多い。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や孫・ひ孫さん・親戚や知人の訪問がある。認知症が進行すると知人とのなじみの関係が薄れてくるが、職員と共に地域に出かけることで、新たに馴染みの関係ができていく。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が会話をしている状況は少ないため、職員が介し、皆で協力し合う関係作りやくつろぎの時間では、ソファにすわりテレビを見たり、お茶を飲みながら世間話などができるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ホームの行事にボランティアとして参加して頂いている。カフェに寄ってくださる。近所で逢ったときは話をして頂いている。また運営推進員として参加して頂いている。昼食作りのボランティアに来てくださる方もいる。		

自己評価	外部評価	項目	H30 2F 楓 自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常生活の関わりを通して、話す機会を多く持ち、本人の思いや希望を聞き取っている。本人本位の支援をするために、ケア会議を開催し職員間で共有する。本人の意向をケアプランに反映し、本人本位のケアに努めている。また意思表示できない方は、日頃の言動、表情等により推し測り理解するように努力している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に生活歴やライフスタイルについて、詳しく聞き取りしている。入居後も家族や本人からの情報を職員間で共有し、職員・家族と共にその人らしい暮らしができるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人のできること、わかること、支援を必要としていることを職員間で出し合い見極める努力をしている。今日の気づきを申し送り時や記録することで、情報を共有し、より良いケアができるように努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の現状の様子を観察し、また本人及び家族の意見を取り入れ、ケース会議で検討している。本人の役割や願い・思いを取り入れたもの、また家族や地域との係わりが継続できるように介護計画書を作成している。毎日モニタリングを行い、ケア日誌へ記録している。		

自己評価	外部評価	項目	H30 2F楓 自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア記録24時間シートを使い、勤務者全員で関わった入居者の様子や、気づきを記入しているが、特に注意すべきことは、赤ラインを引き、ケアが変化したことを共有している。また本人の意向を記入する時は本人の言葉をそのまま記入することも行っている。スタッフは業務日誌・ケア日誌・職員ノート・送り表等を確認するよう指示し、ファイリングは時系列で確認ができるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者の希望に対して家族や社会的資源・地域資源・他事業所の協力により柔軟に支援している。特に個別を尊重している。古い友人と外食に行くことや特に誕生日には本人の願いを叶えるため努力している。毎年、地区の敬老会に出席している方がいる。今年は来年3月に100歳になるので、地区の敬老会で盛大に祝っていただいた。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎日近隣へ買い物に出かけ近隣の方と挨拶を交わしている。町内会に加入し、今年は班長を任されているため回覧板を回し、自治会費を集金し、ゴミ拾い、町内会のレクリエーションに参加している。また地域の行事や小学校の運動会等見学など多くの行事に参加している。特に地区の文化祭には、毎年合唱の発表をしている。模擬店にも参加している。毎朝小学校の正門前に立ちおはようの声掛けボランティアも継続し、小学生の訪問を受けたり、小学校の祭や運動会に招待されている。地域の施設間でも交流があり、運動会やお祭等に参加している。近隣の福祉農園で春、秋2回芋掘りに出かけている。芋掘りの時期になると必ず声をかけていただき、芋掘りと旬の味覚を楽しんでいる。ADLが低下している方でも、本人の意向を尊重している。		

自己評価	外部評価	項目	H30 2F楓 自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問医は本人及び家族との話す機会があり、気軽に聞くことができる。特に看取りになったときには、時間に関係なく対応し、職員の質問にも気軽に分かるように説明している。緊急時はオンコールで早めの対応ができています。家族からの信頼も得ている。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制はとっている。週一回看護師が来て、ここ1週間の入居者の様子、体調の変化、気づき等情報を伝え、看護師から適切なアドバイスを受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合は情報提供を行い、家族と共に治療経過を聞く、入院中の問題や退院時に退院後の指導がある場合には、病院へ出向き十分な打ち合わせを行う。訪問医も入院先に向いて情報提供をしている。病院側の地域連携室の方とは顔なじみで、ホームのことをよく理解してくれるようになってきた。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人の希望は病院へ行きたくない、ご家族の希望はもう痛いことはさせたくない、ホームにいたことが本人が一番落ち着いているので最後までホームで過ごしたいと希望される方がほとんどである。家族や訪問医と連携し、生活の場での看取りをしている。中には、緊急時は病院へ搬送して欲しいと言う、要望もある希望に沿うようにしている。実践では家族と訪問医、管理者と何度でも話し合い、その意向を踏まえ、職員間でも繰り返しカンファレンスを行う。最後まで口から食べて、その人らしく、人生を全うされるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	H30 2F楓 自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ほぼ全員が救命救急の研修を受けている。応急手当・緊急時の対応マニュアルは作成し周知している。また入居者の既往歴、服薬、連絡先、保険証情報を記載した個別カードを作成し外出時は持参し活用している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月入居者と職員は避難訓練を行い、年2回は消防署や業者の協力により、通報・消火・非難訓練を実施している。また地域の総合防災訓練にも参加している、災害時の必要物品も準備している。地域の住民との協力体制はないが、近隣の種別を越えた施設との連携は行っており、定期的の会合を行っている。		
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員はその方の特徴を捉え人格を尊重しながら、それぞれが分かりやすい言葉で対応しているが、関係性が近くなると忘れがちになることもあり、言葉の使い方に注意するように職員間で注意し合っている、個室に洗面所とトイレが着いているので、排泄・更衣時のプライバシーは守れている。関係書類については鍵をかけ管理している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に主体は入居者であることを理解している。本人がどうしたいか問いかけて自己決定ができるようにしている。細かい事では毎日の飲み物や食べたい物があるか尋ねたり、買い物時希望があれば、取り入れている。また誕生日には本人の希望を実現するようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側のペースに合わせるのではなく、一人ひとりのペースを把握し尊重している。また役割を持ち、動くことを大切にし、押し付けでない生活の支援を心掛けている。活動は説明と同意を得てからお願いする。終えたあとはお礼を述べるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	H30 2F楓 自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服の汚れ・臭いには配慮している。自分で洋服を選ぶことができない方が多数だが、特に外出や行事のときは、身だしなみに気をつけ、その方の好みのものを用意している。理・美容は家族の支援や困難な方には近所の理容師の方へ毎月来て頂いている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	美味しいものを食べることが一番楽しみにされているので、毎日何が食べたいかを尋ね、好みのもの、新鮮で旬のものを味わえるようにしている。美味しいものを食べると元気であることを実感している。毎日買い物に出かけ、食べたいものを選んでもらう。三食とも入居者と共に調理、盛り付け、片付けを行い、職員も一緒に食べて楽しく会話をしている。誕生日にはその方の好みのものを取入れている。外食時には自分で食べたいものを選んでいく。しかし常食が摂れなくなった方には、その方に合った形態食が必要になり、なめらかな形態でない飲み込めない方にはミキサーを使用し、咀嚼力が弱い方には味が損なわれないような形態にするため、すり鉢を使用したり一口大に切り食べやすい形で提供している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	口から新鮮で自然なものを摂ることを基本としている。また1人ひとりの食べる量を把握し栄養バランスのとれた食事に配慮している。食事量の少ない時は補食し、高カロリーのものを摂取している。水分量は最低1500ccを摂れることを目指し、嚥下困難な方は形態を個別に変えながら、飲み込みのよい、好みのもの等々工夫し支援している。		

自己評価	外部評価	項目	H30 2F楓 自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後それぞれの状況に応じて、声掛けや見守り介助を行っている。義歯洗浄管理も必要に応じて行なう。訪問歯科医からの口腔ケアの指導を受けるなどで、口腔ケアの向上から訪問回数が減少している。義歯が合わなくなり、数年間使用していなかった方に、新たに義歯を作ってもらい、通常の食事が摂れる様に形態を工夫している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	重度化とともに、おむつ対応の方が増えてきたが、皮膚トラブルもあり通気性の良いパンツを使用し、パットのみで対応し、日中はほとんどの方がトイレでの排泄に努めている。座位保持が困難である方も二人介助でトイレに座ることで排便につないでいる。臀部の褥瘡の後の、皮膚が薄いためトイレに座ることができない方には、尿瓶を使用している。失敗があったときには、プライバシーに気をつけ清潔にしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄のチェックを行うと共にできるだけ自然排便につながるように、食材には食物繊維の多いものや乳製品を使用、野菜ジュース等飲み物や水分量にも気をつけている。散歩や買い物等で運動を促すなど日中の活動にも気をつけている。		

自己評価	外部評価	項目	H30 2F楓 自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	希望に応じた支援を行っている。好みの温度や時間など、声をかけるタイミングも重要である。ゆず湯 菖蒲湯は好評である。重度化により入浴が困難な方には、負担が掛からないように入浴用のリフトを使用し、不安感や危険防止のため二人で介助している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中でも体力的に休息が必要な方には、活動と休養のメリハリに努め、夜間の睡眠に影響しないよう、個々に合わせた時間の中で休息を取るようしている。寝衣の更衣、リネン類の清潔、空調管理等に気をつけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医と常に連携し、どのような症状でどんな薬が必要かを理解している。処方指示通りの支援を行い、効き具合の様子を観察し医療に繋いでいる。また誤薬防止のため、色分けしたボックスで配薬し、毎日2日分をセットして薬ポケットにいれている、1日分を使用したら、スライドする際に確認することができる。災害時には持ち出すこともできる。重度化していくと、主治医の判断のもとで服薬の見直しを行い、中止して様子を見る事で、副作用が少なく、逆に元気になることを経験している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力を活かし、ひとり一役の役割作りを行っている、ホーム内外の行事に参加、その他外食、外出など定期的に行い気分転換を図っている。個別ケアで本人の望むことが実現できる様努めている。		

自己評価	外部評価	項目	H30 2F楓 自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	全員が毎日戸外へ出かけることができなくなってきたが、身体状況を見ながら少しでも外気浴に触れられる様に、窓際にソファを置いている。また屋上で過ごす工夫をしている。元気な方々は日常的に外出支援を行なっている。買い物、季節ごとの行事を計画し、家族も参加している。家族やボランティアの協力で、今年のパス旅行は大磯、湯河原に行き、入居者全員が温泉の入浴を楽しんだ。地域の行事ではいつも歓迎して頂いている。お誘いも良く受けている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日頃の金銭の管理をきちんとできる方は少なく、外出するときや買い物に出かけたときには、その方の能力に応じて、支払いをしてもらっている。預かり金に関する取り扱い方法が決められている。月末には領収書を沿え報告している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	認知症状が重度であり、自ら電話をかけたがり、手紙を書くことを望まれる方は少ないが、知人からの電話を取り次いだり、友人からお中元を頂いたお礼の電話をかける取り次ぎをした。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	庭に咲いた季節の花を生け、外出や行事の写真を貼り、フロアではソファを数箇所置き、それぞれが好きな所で過ごしている。玄関には季節ごとの飾り（入居者の作品）で生活感や季節感を採り入れて、和むように雰囲気作りを工夫している。ソファで寝転ぶなど自由に好きな場所で過ごせている。		

自己評価	外部評価	項目	H30 2F楓 自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	陽の当たる窓際には椅子やソファを置き、日向ぼっこをされている。またテレビの前にもソファをおいて、くつろげる居場所を作り、それぞれ好きなどころで過ごしている、疲れた時はみんなの声が聞こえるように、ソファで横になり休養をしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具などはできるだけ自宅で使われていたものを持ってきて頂き、配置もできるだけ同じようになるように工夫している。部屋の場所は分からないが部屋の中へ入るとここだと分かり安心されている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーになっており、自室にはトイレ洗面台が付いて、手すりが付いている。入り口は引き戸である、歩行が困難であるからすぐに車椅子にするのではなく、手すりの使い方や声掛けを行い自由に歩行している。職員は転倒に気をつけて、少しでも歩行が継続できるように、入居者の能力に応じたの支援を行っている。		

目 標 達 成 計 画

事業所名

借老ホーム

作成日

2019. 3. 25

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
26	10	職員間の情報の共有が不十分なことで、聞いていない、記録漏れ、記録が不十分なことで、理解ができず、職員間でズレが生じている、そのために効率的な実践ができないことがある。根拠あるケアの実践を行うために、情報を正確に伝え、職員の統一したケアの実践が必要である。	①記録の書き方について学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> ・リーダーを中心に記録の書き方についてマニュアルを作成する ・外部研修にて記録の書き方を学ぶ ・職員会議において周知させる 	4/1~7/25
			②申し送りの仕方について学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> ・送り表の見直しを行う ・送りの漏れがあった内容を記録をしていく 	4/1~3/31
			③翌日の段取り方法について再検討をする	<ul style="list-style-type: none"> ・リーダーが、職員的能力を意識した段取りができるようにする ・翌日のみではなく、1週間のサイクルで計画をしていく ・週間計画表を見直す 	4/1~3/31
			④各シート類の見直しを行い、書き易く、見やすものになるように再検討する 1. 業務日誌、2. ケア記録、3. 観察記録、4. 職員ノート、5. ヒヤリハット、6. ケース会議の記録、7. 職員会議の記録、8. 職員研修の報告書、書きやすくするための工夫が必要である。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 6月の職員会議において意見を徴収する 2. 7月の職員会議において意見を徴収する 3. 8月の職員会議において意見を徴収する 4. 9月の職員会議において意見を徴収する 5. 10月の職員会議において意見を徴収する 6. 11月の職員会議において意見を徴収する 7. 12月の職員会議において意見を徴収する 8. H32. 1月の職員会議において意見を徴収する 年間を通して工夫していく	4/1~3/31

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。